

東日本大震災の復興を目指し 開局した薬局へ勤務

Active
no.19

継続した被災地支援で
帰還住民との信頼関係を築く

2020年6月、東日本大震災の被災地、福島県双葉郡、楡葉町に「ならは薬局」がオープンしました。地域のかかりつけ薬局として、帰還住民からの期待は大きくなっています。飯塚織恵氏は、茨城県から単身赴任で、「ならは薬局」への管理薬剤師として勤務を決意、被災地支援活動、在宅医療の経験を活かしながら日々奮闘しています。



ならは薬局（福島県双葉郡）
管理薬剤師
飯塚 織恵氏

Profile

昭和大学卒
大学卒業後、研究所勤務。
結婚後、病院・療養病床・高齢者施設にて薬剤管理指導業務の立ち上げに関与。
近年は薬局による在宅医療推進、多職種連携を図りながら在宅医療を行う。
2020年5月楡葉町に移住し、ならは薬局勤務にて多職種と連携しながら地域医療に取り組む。

被災地のことが、ずっと気になっていた

ならは薬局に勤務することになったきっかけをお聞かせください。

飯塚 昨年末、福島県薬剤師会の方から「ならは薬局」での勤務についてご相談をいただいたのがきっかけです。実は、2017年、熊本地震の際、茨城県の支援薬剤師の一人として被災地に入り、その時同じように福島県から入られた薬剤師さん達と出会い一緒に支援活動をしました。それ以来、福島県薬剤師会の方と情報交換したり学会で再会したりして交流が続いており、そのつながりで、今回のお話がありました。当時、ならは薬局の建物は、復興庁からの地域医療再生基金によって福島県初の楡葉町公設民営薬局として建設中でし

たが、このあたりは、まだまだ住民が少ないということで採算性が検討され、なかなか経営者が決まらなかったようです。そこで、福島県薬剤師会が設立した一般社団法人復興支援薬剤師センターが運営することに決まり動き出したということでした。

ならは薬局への転勤に迷いはなかったのでしょうか？周囲の反応はどうだったのでしょうか？

飯塚 迷い、もちろんありました（笑）。家族の食事や健康のことを一番先に考えました。そして、勤務中の職場のことも。ただ、周囲は被災地復興のための薬局の必要性を理解してくれて、家族も職場も「行ってお

いで」と背中を押してくれました。主人は、その時、既に私が在宅医療などで帰宅が遅くなる際には、自ら食事を作っていて「今と変わらないでしょ？」という感じでした（笑）。しかし、その言葉は私を心配させまいとの気持ちがあったと感じています。

飯塚 私にとって被災地への思いは11年の東日本大震災の時からです。震災後、すぐに被災地に入り支援をしたいと思ったのですが、当時は100人の患者さんを抱えた施設の薬を担当していたので、その仕事を放り出すことは出来ず、結局諦めざるを得ませんでした。残念だったのですが、もしも、このまま被災地に入ったとしても、今の自分は何も知らない、動けない、ともその時気づいたのです。勉強したいと思うようになり、病棟勤務をして医師と同行するような時は、この経験は被災地活動に役立つかもしれないという意識をもつようにもなりました。その後、16年の常総水害が発生、茨城JMATのメンバーとして被災地に入り支援活動を行い、さらにそのころ災害医療支援薬剤師学会に参加するようになり、徐々に災害活動の経験や勉強を重ねていくようになりました。でも、そんな中でやはり東日本大震災後の被災地のことはずっと気になっていま

した。昨年（19年）、開催された災害医療支援薬剤師学会では、復興庁の方から「福島県の被災地では、避難・帰還に伴う生活環境の変化によってポリファーマシーなど住民の薬の管理問題が生じている」という報告があり、その対策として健康教室を開催するなどの事業が始まりました。私も仕事の休みを利用して健康教室などに参加しながら、保健師さんと同行して在宅訪問を行いました。住民の方と実際に話をし、生活状況を目の当たりにして、よりいっそう何か私にできることはないかと強く思うようになったのです。しかし、一方で被災地支援活動に限界も感じていました。支援活動は通常短期間です。その短い時間、もしくはたった1度、住民の方と接するだけでは、これ以上踏み込めない領域があり、信頼関係を築くことは難しいのです。日常の薬局業務や在宅医療では、患者さんはもちろん、医師や看護師さんなど医療従事者の方とも時間をかけながら信頼関係を築いてきたのです。ならば薬局のお話をいただいた時、「継続した支援活動ができる、今までできなかったことができる」という思いで決意しました。

復興への長い道のり、地域のかかりつけ薬局を目指して

現在の楡葉町の復興や医療環境の状況を教えてください。

飯塚 楡葉町は福島県浜通り地域の双葉郡に属しています（図1）。双葉郡は楡葉町を含めて6町2村から成っていますが、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の影響で、一時は群内すべての町村住民に避難指示が発令されました。その後、徐々に避難指示が解除となり、楡葉町は15年に避難指示が解除されました。その後、ようやく17年ころから学校や医療機関の再開、商業施設が復興してきたことで帰還者が多くなりました。現在の楡葉町の人口は4,026人、震災前は7,700人ですので半数近くしか戻っていませんが、それでも周辺の町村に比べると環境が整ってきているので帰還者数は多い方です。

今年6月、ならば薬局が開局するまで、双葉郡全体での薬局数は、震災後まもなく再開した広野町の広野薬局さん1件だけでした。そのため医療機関の多くは、院内処方に対応したり、処方箋が出た場合は患者さん

がいわき市の薬局に行かれたりしていました。

■ 図1 福島県双葉郡の6町2村



薬局業務やその他の活動はいかがですか？

飯塚 そのような状況だったため、既に近くの県立診療所以外の近隣町村からの処方箋も増えており、1カ月に30前後の施設から処方箋を応需しています。住民の方たちに寄り添った薬局を目標にしているので、薬局業務だけでなく、在宅医療や健康サロンの開催なども始めています。私が在宅訪問をする際の薬局業務など足りない人員は今のところ福島県薬剤師会から応援してもらっています。訪問は週3日の午後に行くようにして、その他、緊急対応やサービス担当者会議、地域ケア会議などには、その都度行くようにしています。

帰還に伴って残薬が増えてポリファーマシー問題が起きているとの報告がありますが、入退院などの経験がある方はさらに深刻です。ある70代のご夫婦を在宅

訪問していますが、きっかけは町内で別に居住されている娘さんから、どうも薬が飲めていないという相談でした。奥さんは介護申請中、ご主人は入退院を繰り返している状況です。入院時に薬を持参しますが、病院ではそれらの薬は服用しないわけです。そして退院時に退院処方が1カ月分出され、患者さんご自身は、どれを服用したらいいか分からなくなってしまっていたという状況でした。ケアマネさんと一緒に訪問し、残薬を確認すると合計、¥148,848分の残薬がありました。クリニックへ報告し、ほとんど服用していなかった昼の分として分3から分2に減薬してもらいました。現在、在宅はグループホームも含め近隣の町村合わせて13名を対応していますが、医師や多職種より新たに在宅をお願いしたいという相談もきており、ニーズは増えています。

今後の課題、さらなる目標に向けて

オープンして3カ月が経ちました。地域のかかりつけ薬局になるために具体的に行っていることがあれば教えてください。

飯塚 地域のかかりつけ薬局になるために、3つの目標を立てています。①「住民や多職種に薬の知識や薬剤師の上手な使い方を知っていただく」、②「在宅医療の促進」、③「薬学生や若い薬剤師にならば薬局を知ってもらい興味を持ってもらう」です。①のためにサロンや健康教室を開催を行っています。どんな方でもいらしていただきたいのですが、特にケアマネさんにお声をかけて薬剤師がどのように在宅医療にかかわることができるかという説明をしたところ、ケアマネさん側は、非常に興味を持って聞いてくださり、「ああ、あの方のところへ行ってもらいたい、在宅療養者の顔が浮かんでくる」とおっしゃっていました。②の在宅医療を促進させる上でも多職種の方々に薬剤師の仕事内容を理解していただくことは、とても重要なことです。一方で、移動手段がないため薬局のサロンに来たくても来られない人もいます。そういう方達には、私のほうから地域のコミュニティに出向き、まずは「お薬で何か困っていることはありませんか」と話を聞くことから始め、「薬剤師の正しい使い方」を話します。これが多剤併用や多受診で起る問題の解決や予防のきっかけになってくれればと思っています。



そして③は、若い薬剤師さんにも、地域医療や地域の薬局に興味を持っていただき、そして薬剤師として地域に携わることの楽しさ、大切さを知ってもらいたいと思います。そして、ゆくゆくは、そんな若い薬剤師さんにもなれば薬局で働いてもらえたらと願っています。実際に薬学生が見学に来て、8月にサロンで開催した健康教室では、お手伝いいただきました。若い人が地域に携わっていくことは、復興や帰還のさらなる促進にも繋がっていくと思うのです。

地域によりやく薬局が出来たことへ住民の方の反応はいかがでしょう？

飯塚 「今まで薬局は遠くまで行っていたのが行かなくてよかった」と近くに出来たことをとても喜んでく

ださっています。比較的、患者さんが少ない午後には、ゆっくりお話しができるため、いろいろな質問を受けますが、それに対して一つひとつ話をしていくと、患者さんは「こんなに相談にのってくれる薬剤師さんは初めてだ」、「指導してもらえて助かったよ」などと言ってくれます。いつでも住民が気軽に相談できる「地域のかかりつけ薬局」を目指しながら、私自身もゆっくりといろいろなことに取り組みたいと思っていたので薬剤師冥利に尽きます。

現在抱えている課題はありますか？

飯塚 ゆっくりいろいろと取り組みたいと思っ
ても、そうは言っていられないこともあります。実際、今は毎日やらなければならない仕事をこなすのが精いっぱいという感じです。1日あたりの処方箋枚数はさほど多くはないのですが、遠方の病院から応需した場合、多種類の薬で90日分処方という場合もあるため薬の用意にも時間がかかってしまいます。開局前に予想していた薬の種類よりも、かなり多い種類の薬が必要になっているので、医薬品棚の並べ替えや在庫の管理をもう一度仕切り直ししなくてはならない状況です。

地区全体を考えると、帰還者は2017年ころに戻って

きた方が多いのですが、高齢者が多いため帰還されたところは元気だったけれど、5年の間にだんだん足腰が弱くなったり、病気が悪くなったりして、診療所に通えなくなる、ここでの生活が難しくなっているという方も増えています。医療環境も復興してきていると言われていると思いますが、今後、すべてを診ることができるプライマリーケアの医師がさらに必要だと思います。

**忙しく、課題もある、
それでもはつらつとしていますね。**

飯塚 地域の人達と毎日接しながら仕事をする
ことに、やりがいを感じています。檜葉町では、朝は鳥
の声で目覚め1日が始まり、茨城から連れてきた愛
犬と散歩するのを日課にしています。たとえ忙しく
ても、ゆっ

くり時間が流
れていく、檜
葉町にはそ
んな住み
やすさを感じ
ています。

